JAPANESE RED CROSS TOYOTA COLLEGE OF NURSING

Vol.38

ITOSUGI

いとすぎの丘

01 大学行事

開学20周年記念事業
いとすぎ祭
オープンキャンパス

02 地域貢献

03 きらめく卒業生

04 学生生活

05 Information

日本赤十字豊田看護大学

発行日／2023年11月

01　大学行事

■ 開学20周年記念事業

● 理事長特別講演会

7月4日（火）、本学講堂を会場として、学校法人日本赤十字学園富田博樹理事長による開学20周年記念事業特別講演会を開催しました。

理事長　富田　博樹

「日本赤十字社の過去・現在・未来　そして赤十字看護について」という演題のもと、元赤十字病院における医師であり、日本赤十字社本社における幹部職員としての豊かな経験を持つ富田理事長から、赤十字の看護学生へ伝えたいこととして、様々な視点から赤十字と赤十字看護に対する思いが語られました。

講演会には200名を超える本学学生が参加し、参加者からは「看護師という職業の素晴らしさを改めて感じることができました。赤十字の一員としてこれからも頑張ろうと思いました。」、「赤十字の授業を振り返ることができ、1年生のときにはピンと来ていなかった話も興味深く聞くことが出来ました。就職を考えるにあたっても日赤について学ぶことが出来て良かったです。」、「将来の向かうべき形、というのが少し具体的になりました。」などの感想が聞かれました。

講演会に併せて、当日は講堂前に本学広報紙のバックナンバーや全国の赤十字病院で働く卒業生の声、他の赤十字看護大学と本学の学生との交流事業などについての展示を行いました。本学の20年の歴史と共に、「赤十字」を基盤とした世代を超える全国的なネットワークについて、理解を深める一日となりました。

● 日本赤十字豊田看護大学コンサート

5月20日（土）、開学20周年記念事業として開催したコンサートでは、新日本フィルハーモニー交響楽団の吉鶴洋一氏（ヴィオラ）、イタリアで活躍中の松井敦子氏（ソプラノ・声楽家）、各コンクールにて受賞されている吉鶴ゆか里氏（ピアノ）を迎えてコンサートを開催しました。

コンサートの開催挨拶では、鎌倉学長から開学20周年までの歩みを紹介し、地域に開かれた大学の取り組みの一つとして今回のコンサートを開催する趣旨の説明がありました。

コンサートでは「愛のあいさつ」、「オー・ソレ・ミオ」や「荒城の月」など、ジャンルに縛られない選曲が演奏されました。また、開学20周年を記念したコンサートのため、赤十字関係者にはなじみ深い「あこがれの赤十字」も特別に演奏していただきました。さらに演奏した曲の歴史背景を交えた吉鶴氏の軽快なトークにより、誰もが楽しんでいただける内容で、アンコールにもお応えいただきました。

近隣地域住民の方々や、吹奏楽部の中学生や高校生、本学学生や教職員など、100名を超える方々にお越しいただき、「すばらしかったです。また伺いたいです」「アンコールでは感動して涙が出ました。ありがとうございました。」など嬉しいお言葉をいただきました。地元メディアからの取材もあり、大盛況のうちに終えることができました。

いとすぎ祭

いとすぎ祭実行委員長　3年　小瀬水　晴渚

5月27日（土）に、第20回いとすぎ祭を開催しました。

テーマは「挑戦」です。コロナ禍で多くのことを制限されてきましたが、感染対策を行いながらも徐々に以前の日常を取り戻せるよう、挑戦を続けようという思いを込めました。

▲　有志によるバンド演奏

昨年度の9月に準備を始めた頃は、大学祭を経験したことのない委員ばかりでどうしたらよいのか分からない状態でしたが、委員全員で企画案を出し合いながら準備を進めて開催することができました。企画を考える上で、感染対策は特に苦労した部分であり、いとすぎ祭前日まで念入りに考えました。今年度は、コロナ禍以降初めてバンド演奏に挑戦をしましたが、屋内で行う予定であったものを屋外に変更し、演奏者と観客の距離をとることで実施することができました。最後のビンゴ大会では想像以上の盛り上がりを見ることができ、参加した学生の表情にはマスク越しでもわかるような笑顔がたくさんありました。スマホを片手に写真を撮る姿や「楽しかった」という言葉を聞くことができ、とても嬉しく思っています。コロナ禍以降初めての企画もできたので、皆さんにとって記憶に残る大学生活の一つになることを願っています。

オープンキャンパス

6月17日(土）と9月23日(土）にオープンキャンパスを開催し、2日間で合計483名の高校生と保護者の方に参加いただきました。

企画内容は、模擬授業・看護体験・展示と在学生および教職員による相談ブースに加え、昨年度好評であった本学修了生でもある国際救援看護師の講演と日本赤十字社愛知県支部の展示ブースを設けました。また、学生自治会の全面協力により、今年度から新たに在学生との座談会と教科書やノートの展示も行い、大変盛況でした。

当日の運営には、教職員の他に本学の学生スタッフ102名も携わり、本学で一緒に学ぶ仲間を迎えるべく、丁寧かつフレンドリーに積極的に高校生と関わっていた学生たちは、本当に頼もしく、本学の誇りであると感じました。そのおかげで、参加者アンケートにも「各ブースの看護学生が色々と話しかけてくれて良かった」というコメントが多数寄せられ、約９割の高校生が「オープンキャンパスに参加したことで本学を受験してみようと思う気持ちが強くなった」と回答してくれました。

▲　母性看護学の看護体験（沐浴）

▼　基礎看護学の看護体験（ポケット型エコー）

8月26日（土）にオープンキャンパスminiも開催しました。

02 地域貢献

豊田・みよし地区探究活動発表会

7月28日（金）に愛知県立豊田西高校が主催する「豊田・みよし地区探究活動発表会（旧SSH成果発表会）」に本学の教員が参加しました。本学は2017年度より地域の教育機関による研究発表として、本学学生の卒業研究を中心にポスター発表を行っています。

2022年度卒業研究から「N95マスクを継続使用する状況時の適正な保管方法の検討　-細菌学的指標を用いた比較-」、本学教員から「通所介護における看護職の実践と役割に関する文献レビュー」の2題を発表しました。本学のブースを訪れた高校生は熱心に聴講し、研究方法や結果について質問する様子が見られました。

専門職向け研修会

9月9日（土）大学内にて「学会発表してみませんか？」というテーマで訪問看護ステーションで働く看護師を対象に研修会を行いました。

学会発表の経験がある人やこれから発表を考えている人が参加してくださいました。

学会の紹介や参加の登録方法、倫理審査会の紹介などを行いました。また、参加者同士が自己紹介をしながら現在考えているテーマや悩んでいることなどを意見交換し、和やかな雰囲気で会を終えることができました。

研修会終了後は、学会発表に関して前向きな感想が聞かれていました。地域で活躍されている訪問看護師の皆様に役立つ活動を今後も実施していきたいと考えております。

健康生活支援演習

本演習は、2018年に愛知県立豊田高校と結んだ高大連携協定に基づき、医療・看護コースの教育の充実と高大連携の活性化を図ることを目的として実施しています。

今年も8月3日（木）～7日（月）（土日を除く3日間）、2年生46名が本学にて「健康生活支援演習」を受講しました。本学教員の指導の下、豊田高校周辺のハザードマップの作成、三角巾を使用した応急処置、人形を使用したBLS（心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置）やAEDの使用方法を学びました。

豊根村健康講座

8月22日（火）愛知県豊根村の三沢いこいのサロンで「こころを癒す軽擦法の体験講座」を行いました。今回は、三沢地区と黒川地区による合同開催で、地域の方が34名近く参加されました。

軽い健康体操を行った後、二人一組になり、アロマオイルをつけて、優しく手のマッサージをしました。いつの間にか腰痛や五十肩の予防、手のしびれなどの話に広がりましたが、終始和んだ雰囲気のサロンでした。最後に全員で記念撮影を行い終了となりました。

03 きらめく卒業生

検疫所で感染症の侵入防止に立ち向かい、活躍されている検疫官（看護師）の平山さんにお話を伺いました。

厚生労働省　名古屋検疫所
静岡空港出張所

平山　達矢さん

2011年3月卒業（5期生）

Q 本学卒業後の看護師のキャリアについて

A 卒業後は、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の呼吸器センターで5年間勤務しました。病棟には第一種感染症病床があり、毎年感染症患者の受け入れ訓練を実施していましたが、そのころ西アフリカでエボラ出血熱が流行したことから、検疫所との共同訓練をする機会がありました。そこで検疫官（看護師）のことを知り、感染症の最前線で働きたい気持ちが芽生えたことと、空港で働きたいという子供の頃からの思いが後押しとなって、検疫所に入職しました。検疫官（看護師）として、中部国際空港の勤務を経て、現在は富士山静岡空港で働いています。

Q 検疫官（看護師）の魅力とは

A 検疫所には、日本には存在しない感染症を水際で見つけ出し、侵入を防止する役割があります。空港でサーモグラフィにて発熱者などの体調不良者を確認している姿を思い浮かべる人が多いと思いますが、それ以外の仕事も多くあります。例えば、感染症を媒介させる蚊やネズミを空港や港のまわりで捕獲して感染ウイルス保有の検査をすること、長期航海中に感染症が蔓延しないよう船の衛生環境チェックをすること。その他、黄熱の感染リスク国への渡航者のワクチン接種をしたり、海外渡航者への感染症予防の情報提供として高校や大学での講演をすることも検疫官の仕事です。

▲勤務中の様子

また、検疫所の仕事は、全てが法律に基づいていて、隔離や停留といった人権に関わる行為や船の運行に関わる権限も持っているため、ひとつ間違えると大問題になります。COVID-19の時もそうでしたが、法律をよく理解して、相手が納得できる説明をしていかないといけない難しさもあります。日本にない感染症が侵入して広まってしまったら大変なことになりますので、毎日、感染症の侵入がないように仕事をすることで、国民の健康を守り続ける役割を果たすことができる仕事だと思っています。

Q 大学での学びがどのように活かされていますか

A 学生のころ、課題をまとめてプレゼンテーションする機会が度々ありましたが、今の仕事でも研修会の講師や会議でプレゼンテーションをすることもあり、学生のうちからプレゼンテーション力を磨けたのは良かったと感じています。また、空港や海港で病気の人がいた場合、問診やアセスメントをしてしっかり看ることが基本業務となりますので、看護の基本があることがとても大切ですし、人権を大切にした関わり方も大切ですので、大学で学んだことが基盤になっていると思います。

Q 今後の目標は

A 検疫官としてまだ経験や知識が不足している部分があります。全国の空港・海港に転勤する機会があり、またそれぞれに特性もあるため、どこであっても検疫官としての仕事をすべて実施できるスペシャリストになっていきたいなと思っています。

在学生へのメッセージ

学生さんのほとんどが卒業後は病院で働くと思います。しかし、看護師や保健師の資格を持っていると、いろんな場所で働く選択肢を持つことができます。私自身も大学生の時は検疫所に入るとは思っていませんでした。そこで思うのが、どんな職場に就いても、大学で学んだことで必要のない知識はないということです。学生の頃は災害救護に関連する知識を仕事で使うとは思いませんでしたが、現職の航空機事故訓練ではその知識が役立ちました。そのように、大学や病院で学んだ一つ一つが、自分の知識や経験となり将来につながっていくと思います。今、目の前にある勉強やサークル活動などを自分に関係ないこととは思わずに、全力で取り組んでほしいなと思います。

▲学生時代の平山さん

04 学生生活

RCT☆LINK

3年　亀谷　愛

皆さん大学生活はいかがお過ごしでしょうか。私はとても充実した大学生活だと感じています。私は災害救援や国際救援に興味があり、本学に入学しました。学年が上がるほど目の前にある課題やテストに圧倒され、自分自身の興味があった分野について挑戦していくことが難しくなりました。しかし、先生方や同じ学年の仲間、先輩方から助けていただき、興味のあることには積極的に取り組むことができています。

その1つが、国際救援看護論の講義や演習、そして実習です。赤十字の救護班で看護師としてさまざまな地域に派遣されていた先生の経験談をお聞きしたり、日赤愛知災害管理センター棟の見学をしたりすることができました。これらは、本学に入学しなければ体験できなかったことだと思いますし、とても印象に残っています。

もう1つがDMAC（災害支援サークル）の活動です。DMACの企画長として、災害時の医療についてオンライン学習会を開催しました。また、夏休みには救急法救急員養成講習を3日間受講し、傷病時の初期対応に関わる知識と技術を習得することができました。このように、必修の講義以外でも自主的に活動することのできる機会がたくさんあります。

▼ DMACの仲間（上段右から2番目が亀谷さん）

これまで座学中心の大学生活を送ってきましたが、これから領域別の実習が始まります。患者さん一人一人に対して、優しさのある看護を提供できるように行動していきたいと思います。また、私の周りには自分の夢を明確に持ち、実現させるために日々努力を続けている素敵な仲間がたくさんいます。実習を終えて、成長した姿で仲間と再会できるのを楽しみに頑張っていきたいです。

⇨ 次回RCT☆LINKは 3年神野 里空さんです

キャンパス紹介&写真で見る学生生活

「学生・キャリア支援室」

学生・キャリア支援室では、就職支援情報（病院や地方自治体などの看護師および保健師のインターンシップ・病院説明会開催情報、求人情報、採用試験情報）、進学情報（大学・大学院、専修学校などの入試情報）、資格取得支援情報（看護師国家試験や保健師国家試験の模擬試験情報、練習問題など）、奨学金情報（病院、地方自治体、各種団体などの奨学金や給付金に係る情報）が収集できるようになっています。大学の施設利用可能時間に合わせて開錠されており、誰でも利用できます。

大学卒業後の進路は、学生一人一人にとって、とても重要な人生の選択です。選択に欠かせない

“情報”がこの部屋に詰まっています。学生の皆さん、ぜひ積極的に活用してください。設置してほしい資料等のリクエストもお待ちしております。

学修環境向上のための新たな取り組み～DX教材の導入～

本学は、文部科学省による大学改革推進等補助金、「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に採択され、複数のDX教材を導入しました。今回は、ハイブリッドシミュレータを紹介します。

ハイブリッドシミュレータは、生体反応が変化するようにプログラミングされています。成人看護学領域では、2年次の成人看護学技術演習Ⅰと3～4年次の成人看護学実習で、この教材を使用し段階的かつ継続的にシミュレーション演習を行っています。手術や化学療法の治療で身体に変化が起こる患者の状況をリアルに再現できるので、学生は臨床の患者がイメージしやすくなりました。そのため、具体的な看護が考えられ、自信をもって実習に臨めるようになりました。

⇒次回は、「携帯型タブレットを用いた遠隔実習指導」を紹介します

05 Information

開学20周年記念事業のご案内

本学は1941年の日本赤十字社愛知支部病院救護看護婦養成所に始まり、約80年にわたって赤十字看護師を養成しています。2004年には名古屋市から豊田市へ移転開学し、本年2023年4月に開学20周年を迎えました。

2023年度は開学20周年記念事業として、赤十字看護師の未来のために以下の事業を実施いたします。

開学20周年記念事業ロゴ

【開学20周年記念事業（学習・学修環境の整備）】

①講堂にLEDビジョン設置：全国の赤十字大学をオンラインで繋いで合同事業を実施します。また、他大学や研究機関と連携した公開講座や学術講演会等で地域に還元するとともに地域の方々も利用できる教育研究活動の拠点にします。

②赤十字学の立ち上げ：本学保管の古文書を基に近代史の研究者等と「日本赤十字学」を立ち上げ、良質な研究を教育に還元します。

③国際性豊かな学生の育成：学生の新たな発見や課題解決のための学習環境の改善をはかり、赤十字大学全体で国際交流を促進できるような仕組みづくりを提案します。

④災害教育の環境整備：災害教育の実践を本学の特徴として位置づけ、いつでも誰でもすぐに災害看護に特化した実習に参加できるような環境を整備します。

⑤いとすぎプロジェクト：赤十字精神発祥の地から贈られた貴重な糸杉（赤十字のシンボルツリー）が本学に1本残っていることから、挿し木で増やし後世へ残すことを計画しています。

令和５年度公開講座・専門職向け研修会日程

■ 公開講座

日　時	領　域	テーマ
令和6年3月9日（土）　10：30～12：00	成人看護学領域	「あじわう」は健康のもと
令和6年3月16日（土）　10：30～12：00	公衆衛生看護学領域	居酒屋健康管理室

■ 専門職向け研修会

日　時	領域・講師	テーマ	備　考
令和5年12月17日（日） 10：00～11：30	鶴巻温泉病院 出江紳一副院長	人とチームを育てるコーチングスキル	オンライン （Zoom）開催
令和6年2月3日（土） 10：30～12：00	母性看護学 千葉朝子講師	ケアをする人・される人が共に癒されるアロマハンドマッサージ（仮）	対面開催

令和４年度　事業活動収支計算書（予算対比）　（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

■事業活動収入の部　（単位：円）

区分	科　目	予　算	決　算	差　額
教育活動収入	学生生徒等納付金	889,986,000	883,036,000	6,950,000
	手数料	30,415,000	16,565,000	13,850,000
	寄付金	4,180,000	4,205,457	△ 25,457
	経常費等補助金	147,855,000	138,528,466	9,326,534
	付随事業収入	5,472,000	898,000	4,574,000
	雑収入	5,205,000	3,951,920	1,253,080
	内部取引	4,026,000	1,848,760	2,177,240
教育活動収入計		1,087,139,000	1,049,033,603	38,105,397
教育活動外収入	受取利息・配当金	9,000,000	8,799,790	200,210
	その他の受取利息・配当金	0	0	0
教育活動外収支計		9,000,000	8,799,790	200,210
特別収支	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	350,000	4,563,191	△ 4,213,191
特別収入計		350,000	4,563,191	△ 4,213,191
事業活動収入計		1,096,489,000	1,062,396,584	34,092,416

令和4年度の財務状況は、上記のとおり事業活動支出の部の人件費、教育活動収入、管理経費の支出減と事業活動収入の部のその他の特別収入（20周年事業寄付金）の収入増により、予算対比（差額）が生じております。

■事業活動支出の部　（単位：円）

区分	科　目	予　算	決　算	差　額
教育活動支出	人件費	703,605,000	664,876,224	38,728,776
	教育研究経費	354,380,000	335,541,589	18,838,411
	管理経費	85,586,000	77,048,067	8,537,933
	内部取引	17,351,000	15,883,557	1,467,443
教育活動支出計		1,160,922,000	1,093,349,437	67,572,563
教育活動外支出	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計		0	0	0
特別支出	資産処分差額	0	2,420,099	△ 2,420,099
	その他の特別支出	0	0	0
特別支出計		0	2,420,099	△ 2,420,099
事業活動支出計		1,160,922,000	1,095,769,536	65,152,464
基本金組入前当年度収支差額		△ 64,433,000	△ 33,372,952	△ 31,060,048
基本金組入額		△ 195,307,000	0	△ 195,307,000
当年度収支差額		△ 259,740,000	△ 33,372,952	△ 226,367,048
前年度繰越収支差額		478,290,000	478,290,180	△ 180
基本金取崩額		0	12,250,913	△ 12,250,913
翌年度繰越収支差額		218,550,000	457,168,141	△ 238,618,141

開学20周年記念事業にかかるご寄付のお願い

本学は2004年に日本赤十字豊田看護大学として豊田市に設立され、2023年4月に開学20周年を迎えました。
関係機関のご協力や地域の皆様のおかげをもちまして迎えた記念すべき20周年の記念事業（前ページでご紹介しております学習・学修環境の整備及び教育研究活動の充実）に広くご寄付を受け付けております。

【受付期間】2024年3月末まで随時受け付けております。
【募集金額】 個人 寄付金：1口 5,000 円（1口以上から受け付けております。）
法人 寄付金：1口 10,000 円（1口以上から受け付けております。）
【申込方法】本学ホームページにて、インターネットからお申込みいただくか「寄付申込書」をダウンロードし所定事項をご記入の上、事務局まで郵送・FAX・メールでお送りをお願いいたします。
【振込先】
（銀　　行）三菱UFJ銀行　豊田支店　普通 4545333　（口 座 名）日本赤十字豊田看護大学（にほんせきじゅうじとよたかんごだいがく）
（信用金庫）豊田信用金庫　朝日支店　普通 1020525　（口 座 名）日本赤十字豊田看護大学（にほんせきじゅうじとよたかんごだいがく） 学長（がくちょう） 鎌倉（かまくら）やよい
（郵便振替）00840-8-68673　（口 座 名）日本赤十字豊田看護大学（にほんせきじゅうじとよたかんごだいがく）
【連絡先】　日本赤十字豊田看護大学　TEL0565-36-5111　20周年記念事業事務局まで
皆様方からのご厚誼とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

サポーターズ募金（寄付金）

教育研究環境充実のための設備や教育資材等を適時適切に整備し、充分な教育環境と学生生活の支援を学生に対して行うことを目的として、日本赤十字豊田看護大学サポーターズ募金“いとすぎ募金”を創設いたしました。
“いとすぎ募金”の趣旨をご理解・ご賛同いただき、皆様からのご支援ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

【活用方法】①教育活動の充実　②研究活動の充実　③奨学金制度の充実　④学生生活の支援
⑤施設整備の充実　⑥社会連携の推進
【募集期間】毎年度募集（随時受付）
【募集金額】個人1口　5,000円
法人1口　10,000円　※1口から10口程度お申込みいただけますと有難く存じます。
【申込方法】本学ホームページより「寄付申込書」をダウンロードいただき、本学経理課あてにE-mail・FAX・郵送いずれかの方法によりお申し込み願います。
【税制上の優遇措置】本学への寄付金は税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。
※詳細は本学ホームページトップ画面にあります「ご寄付のお願い」をご確認ください。

Event（11月～3月）

11月	11日（土）	開学20周年記念式典
	25日（土）	推薦選抜・社会人特別選抜
12月	29日（金）	冬期休暇［～1月3日（水）］
1月	27日（土）	大学独自選抜
2月	17日（土）	第2回大学院入学試験
3月	5日（火）	大学入学共通テスト利用選抜（後期）
	13日（水）	学位記授与式

最新情報をチェック！

入試情報やイベント情報などを発信しています。ぜひフォローをお願いします！

LINE公式アカウント　Instagram　X　愛知県内赤十字施設共同Instagram

JRC_TOYOTACOLLEGE　NISSEKI_AICHI

編集後記

今年は、新型コロナウイルスの感染症法の位置づけが、季節性インフルエンザなどと同じ5類に移行したことによって、感染対策は個人の判断に委ねられることになりました。これまでの行動制限はなくなり、街も賑わいを取り戻しつつあります。
「いとすぎの丘」Vol.38では、開学20周年記念事業の紹介と本学の卒業生で現在、検疫官として活躍されている平山さんのインタビューを掲載いたしました。看護職としての経験を基盤に活躍の場が拡がっていることなど、今後のキャリアを考えるうえで参考になったのではないでしょうか。
平山さんの益々のご活躍を祈念するとともに、本号の発行に際し、ご協力いただきました皆さまに感謝申し上げます。

いとすぎの丘　Vol.38
発行日／2023年11月
編集・発行／日本赤十字豊田看護大学
入試・広報委員会、企画・地域交流課

〒471-8565　豊田市白山町七曲12-33
TEL 0565-36-5111（代表）
FAX 0565-37-8558
E-Mail　kikaku-ka@rctoyota.ac.jp
HP　https://www.rctoyota.ac.jp/